

政治学概論 II 授業の感想

島根大学教育学部 2024 年度

苅谷千尋

% ページ数を消す

政治学概論 II 2024 w2 (12 月 18 日) 授業の感想

氏名	Q1	Q2
岩田	日本は難民鎖国である	日本は自己責任型国家であるため、税金を払っていない外国人に対しては、いくら困っていても助けないという方針であると感じた。確かに、税金を納めている国民のためにお金を使うべきであるという考えは間違っていないが、日本のような先進国よりも周辺国である発展途上国の方が難民を受け入れているという事実を知ったことから、お金だけの問題ではなく日本人の人柄も関係しているのではないかと考える。
内坂	私が今回の授業で重要だと思った箇所は難民の受け入れについてである。	上記の箇所を選んだ理由は、難民条約の締結国が負わなければならない義務や、難民の受け入れが及ぼす各国への影響が印象に残ったからだ。日本の消極的な受け入れが問題提起されていたり、ドイツでは移民問題をめぐってデモが激化していたりと、難民保護は政治や経済にも大きく関わることだと分かった。難民鎖国は認定者数や申請手続きの厳しさだけを理由に結論づけるものではなく、さまざまな要因や背景を考慮することが必要だと感じた。
宇名手	難民条約について	日本も加盟している難民条約について、難民認定方法に関する規定がないことや、国家によって解釈が異なることから、受け入れる難民の数に差があるということについて疑問と違和感を抱いたから。また、世界的に見ると受け入れ数が少ない日本が「悪」と捉えられても無理はないのではないかと思ったから。
遠藤	日本の難民受け入れ体制が難しいことが重要だと思った。	これまで日本は難民の受け入れほとんどをしていないと思っていたが、実際にはウクライナ避難民のように受け入れがあることを知った。しかし、世界の難民の状況と比較して少ないことや他の難民との処遇に違いがあることなどの問題があることも事実であった。それは、日本が灰色の利益を認めたり新しい形態の迫害に対しての感覚が低いことがあり、メディアも報道が続かず関心を持ち続けることが難しかったりするため、日本が難民について考えていくことは重要であると感じたから。
大石	世界の実際の状態と日本のニュースなどを用いた情報には非常に乖離があるという認識を持つことが重要だと感じた。	世界の状況は日本のニュースや新聞などでは伝えきれない部分や問題の優先順位を付けられていることが多く、講義内であった youtube やネットといった情報から自分で調べ情報を補っていく必要があると感じたから。また、日本では報道されていない世界のニュースは多い一方で、すべてを報道していくのは現実的に考えて不可能であり、これは日本の報道が悪いとよくネットなどで批判しているコンテンツについて一概に否定する認識は不適當だと実感し、報道の難しさを理解したから。
大久保	難民認定	外国と比べると、数も難民として扱っている定義も小さいため、どうなんだという意見もあるが、日本は難民を多く受け入れる他の国と見ても、海を渡らないとやってくることができないのでそもそも一定レベル以上の人しか来ることが難しいのではないかと思った。また、今の日本では昔のような世界のために何かするという力も衰えてきているのに外から助けないといけないのは難しいと思った。

(continued)

氏名	Q1	Q2
片山	Npo の人の難民に関する支援の動画	正直これはかなり難しいと思う。実際、難民を受け入れて支援するには、当たり前だが、日本国の財源を使うわけで、それをどう国民にコンセンサスを取るかも重要だし、現在日本は、物価高や自民党の失策で、国民がかなり苦しんでいるのに、国民には支出せず、難民には支出するのを国民が許すわけがない。確かに、難民問題は、どうにかするべきなのかもしれないが、NPOの人には、逆にどうするのか聞きたいと思ったから。
加藤	日本が難民を受け入れないなどの難民問題 『朝日新聞』世界で急増する難民申請者	日本が難民を多く受け入れていない背景に、難民を認定する基準が高く、難民申請が通らないことがあると感じた。長沢さんの例であったように、日本で難民申請が認められるのはきわめてまれだという記述があったからである。在留資格を失っており、働くことも生活保護を受けることもできず、健康保険もないとされる。また、この問題は難民に限らず移民にも関連すると考えたため重要だと感じた。日本は外国人への支援を行っている諸外国と比べて、外国人への支援が制限されていたり、参政権が認められていなかったりする。もちろん、日本という国を守るために、治安や経済を考えた上での制度だと考える。しかし、外国人労働者や一定数存在する在留外国人、国際化を考えた時に、外国人受け入れと権利保障が今後重要になってくると考えたからである。
小松	グローバル・ガバナンス論	内政不干渉の原則は、現在では中国などが問題視されているが歴史的に見れば日本も朝鮮などで行っていたため他人事ではないためこれについて考えることは重要であると考えた。近隣諸国とのトラブルなど「国際的な問題を封じ込める言い訳」として用いられるという点において、「言い訳」という言い回しが疑問に感じた。民族自決の観点から考えると内政干渉は否定されるべきものであると考えていたが、国際政治学では内政不干渉の原則と言い切れない問題も多く、言い訳と捉えられるという点が気になる点でもあり面白い点でもあったと考えた。
高橋	日本は他の国と比較すると難民認定者が少なく、それ故に難民鎖国と呼ばれている点が重要だと思った。	自国に居ると迫害を受け、生命や尊厳が脅かされる恐れがある難民を日本を含めた世界全体で保護していく必要があるからこそ、日本もより一層積極的に難民を受け入れるべきだと考える。その一方で、日本は一先進国ではあるものの、最近では経済の停滞や社会の混乱がますます深刻化しており、その中で難民を全面的に受け入れるとなると国民から不満や怒りの声が挙がったり、国自体の余裕が無くなったりすることが懸念される。以上の点を踏まえて、日本は難民を保護する義務・使命と難民の受け入れにより生じる問題点の両側面から段階的に議論を進めていく余地があると考えたからである。

(continued)

氏名	Q1	Q2
田辺	マイノリティがどういう生活を送っているか想像することができないということ、問題の無関心によって生じる政府と市民の溝	市民がその問題を知ろうとすることなしには、グローバル・イシューの解決に向けた行動を政府が取れないと考え、重要な箇所として上記を挙げた。問題に対して想像することができなかつたり、無関心のままでいてしまつたりする理由は、そもそも問題についてよく知らないからだと考える。私たちが物事に興味を持つときには、ある程度その物事について知っていることが前提にあるように思う。しかしながら、社会の諸問題について大人になってからは自分から進んで調べることなしには、それらの情報が得られず、興味のない人は興味のないままでいるのではないかと考える。一方で、学校ではグローバル・イシューを含め社会の諸問題について嫌でも学ぶ機会が設けられている。こうしたことから、教員になる際には、子ども達に問題に興味を持ってもらえるような内容のある授業をしたいと改めて思った。
爲石（康）	グローバル・イシュー	グローバル・イシューが面白いと思った点は、（２）の大国にとって放置可能なイシューである。それは、世論は大国にとっても重要なイシューであると感じたためである。大国はそれなりに人口がおり、世論が国家にもたらす影響は大きい。なので、世論が放置可能なイシューとされているのが納得がいかなかった。
西田	難民を理解するための１５分	日本では、難民の強制移動についての話題が比較的報道される国と報道されない国というものがあるという部分が重要であると思った。なぜなら、報道に偏りがあるということ把握していなければ、国民による難民に関する情報の受け取り方や問題に対する考え方に悪い影響を与える恐れがあるからだ。特定の地域での報道が少なくなれば、その問題の重要性や緊急性が看過されることがある。このようなことから、特定の国について報道するのではなく、多くの国を取り上げることで難民の問題を捉える必要があると考える。
丹羽	グローバル・ガバナンス論	まず、「グローバル・ガバナンス論」についてこの講義を通して初めて聞いたので面白く感じた。また、グローバル・ガバナンス論の難しさは特に面白く感じた。自分は、難しさの中でも「国民的理解を得られにくい」という問題が一番身近に感じられた。ネットやテレビを見ていても、政府が外国に金銭的な支援を送り、そのことに対して不満を持っている日本国民は多いと感じられる。日本が、ロシアとの争いで緊急事態であるウクライナに対して多額の金銭的な支援をした時でさえ、怒っている日本国民がいた。この問題を解決するためには、日本の外交政策をより透明化し、外国を支援することのメリットなどを国民が理解しなければならないと考える。
原田	大国（主権国家）にとって放置可能なイシューについて	世論がない限り主権国家は動かないが、その世論ですら政府やメディアに操作されやすく操作されていることにすら気づかないということが個人的に重要であると感じたから。また、世論が他国の問題には反応しづらいという部分には人々の心のどこかで「自分には関係ない」や「自分の国は安全だから」という無関係・謎の自信など心理的な影響が強く出ているからではないかと考えられることが、面白く感じたから。

(continued)

氏名	Q1	Q2
藤井	グローバルイシューである難民問題について、日本は国によって難民支援に差があること。	ウクライナに対しての難民支援が他国と比べて優遇されているのがとても気になった。難民となった理由に違いはあれど、難民であることは変わらないし、国で差をつけるのは違うのではないかなと思ったため。日本がもともと難民を受け入れていないのは、社会科の授業やニュースを見て知っていたが、現在急速に高齢化が進み労働人口が減少している日本は、この先難民の受け入れを拡大する必要があると思うので、難民を平等に受け入れる国が望ましいのではないかなと思った。
藤田	日本の難民受け入れ数が異常に少なく、日本に逃れてきた人に対して非人道的ともいえる扱いをしていること。	難民についての動画の中で、難民の人たちは衛生環境の悪い場所での生活を強いられ、年寄りと結婚させられ、不安しかない状態で子供を育てなければならない状況にあること知った。難民の人たちは自由が許されず、今の自分では考えられない環境で懸命に生きている。しかし、やっこの思いで日本に逃げてきた人を強制的に監獄のような場所に入れ、帰国するように圧をかける行為を行っていることに憤りを感じ、日本政府は国民が思っているより腐っていると感じたから。
本田	独立運動と沖縄には似たものがある	独立運動とは自分たちのすることを自分たち自身ですと決めることであり、それが世界でも進められている。それが沖縄でも同じことが言えるのが面白いと感じた。沖縄でも自分たちの考えを主張するということが行われているが、かなわないものもおおくある。そのため、世界のことでなく日本でも似たことがあると実感したから。
本間	グローバル・イシューの決定的な主体	移民や地球温暖化、核廃絶など様々なグローバル・イシューを解決するためには大国が主体的に行動する必要があるにも関わらず、そうした問題を日本も含めて他人事として捉えている。あるいは、放置できてしまう力関係が良くないと感じた。また、日本の難民に対しての制度が厳しいことは仕方ないと思うが、世界に比べて制度が厳しいことが知られていない現状は良くないと感じた。私たちは世論によって政治家に訴えていくことが重要であると感じた。
三島	グローバル・ガバナンスの難しさ	グローバル・ガバナンスの難しさは、国家間の利害対立や経済格差、文化や価値観の違いによって協調や合意形成が難航する点にあると感じました。例えば、気候変動対策や貧困削減といった地球規模の課題は、各国が協力しなければ解決できませんが、発展途上国と先進国では責任や負担の分担をめぐる意見が対立しやすいことが問題だと学びました。さらに、国際機関の役割も重要ですが、加盟国の主権を尊重しつつ強制力を持つ仕組みを整えることの難しさもあるのだと感じました。こうした課題を克服するためには、互いの信頼関係を深め、対話を重ねながら公平で包括的なルール作りを進める必要があると考えます。
三井	・世界で問題になっていることについて、日本がどのように対応しているのか・グローバルガバナンスの難しさについて様々な視点から考えることができたグローバルガバナンス論	一つの国の中で解決することができない大きな問題が沢山ある現在で、簡単に解決することができない理由を知ることができた。それぞれの国の政治の考え方などが異なることで外交だけで解決する問題ばかりでもないし、日本のように政治の動きと国民の意思が大きく異なっている国もあるため、世界的な問題を解決することが難しいことが分かった。特に難民問題はドイツの例などから見ても、政治・市民・難民それぞれで意思があるからこそ帰国圧力などに繋がってしまう可能性があるのかなと思った

(continued)

氏名	Q1	Q2
渡邊	日本の難民の受け入れについて	日本は難民をかなり多く受け入れていると思っていたのだが、日本で難民申請が認められることはほとんどなく、働くことも生活保護を受けることもできないということを初めて知ったから。難民を受け入れることでおこる問題もあることを知ったけれど、それでも受け入れることで日本という安全な国で安心して過ごすことができる人が増えたり、争いに巻き込まれて命を落とす人も減ったりするのではないかと私は考えているので、受け入れの条件などをもう一度見直すことも重要なのではないかと感じた。